



ゆうこみやぎの Vol.85

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソッコ de ソッコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソッコ(=お便り)形式のエッセイです。



本田優子
(札幌大学教授)

今月のテーマ
カリンパニー桜の皮の木ー

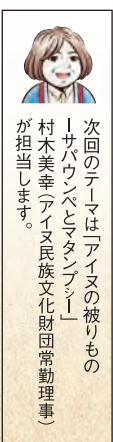
北海道もようやく
桜の季節ですね。アイ
ヌ語で桜の木のこと

はカリンパニ。語源的には、カリンパニ桜
の皮ニ木。つまり桜の皮の木という意
味。桜と言えば普通は花だけけど、アイヌ
語の植物名の多くは、人間にとって大切
な部位の名称がもたっていると言われ
ます。つまりアイヌの人たちにとって桜
は、花よりも皮に価値があったというこ
となのです。
じゃ、桜の皮の価値って？皆さんは、桜
の皮をこすったらピッカピカに光ること、



イラスト／莊田悠人

ご存じですか？たとえば秋田県角館(仙
北市)では、ほれほれるほど美しいお茶
筒や箱が作られています。樺細工と呼ば
れているけど、実は材料は桜の皮。アイヌ
社会でも、マキリ(小刀)、タシロ(山刀)、
イカヨブ(矢筒)などいろんな道具にカリ
ンパが使われ、その焦げ茶色の輝きは絶
妙なアクセントになっています。でも、単
に装飾的效果だけだと思っただら大間違
い。たとえばマキリやタシロの鞘。表と裏
を膠(ねり)で貼り合わせて作る場合、お湯に漬
けて柔らかくした桜の皮を巻きつけ
ると、乾くにつれてギュッと締まり、絶対に
剥がれなくなるのです。



次回のテーマは「アイヌの狩りもの」
「サバウンベとマタンブー」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。

もう一つ、カリンパを使う代表的な道具
として挙げたいのはカリンパウンク(桜の
皮がついた弓)。ぐるぐる巻かれたカリ
ンパは見た目もとても美しいけど、これま
た単なる装飾品じゃないだよ。だっ
て、どんなイソソクル(狩りの名人)でも、
向かってくる熊を射ようとした瞬間、パ
キッって弓が折れたりなんかしたら一巻の
終わり！だから、絶対に折れない強い弓
にするためにカリンパを巻くのです。桜の
皮がいかに重要かわかるよね。
それならアイヌの人たちは桜の花を愛
でないのかって？いえいえ、そんなことは
ありません。昔、二風谷の我が家の庭に突
然桜の苗木が植えられていたの。「っ？」
と思っただら、近所のアイヌのおじさん
が「桜、植えといたぞ」。咲いたらきれい
だべ(笑)。今では電柱を超えるくら
い大きくなったその桜の木を見上げるた
びに、すでにお亡くなりになったおじさん
のあの時の笑顔を思い出します。



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。